



広島経済大学 キャリアアップ・プログラム通信(第 214 号)

2018 年 6 月 28 日 配信



◆広島経済大学 社会人対象講座キャリアアップ・プログラム◆

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

◇広島経済大学 カルチャー講座◇

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/culture/index.html>

◇キャリアアップ・プログラム講師のルレーコラム◇

「W 杯初出場 アイスランド TV 視聴率 99.6%」

キャリアアップ・プログラム 1 学期「Excel で学ぶ統計入門」、3 学期「ビジネスに活用 実践データ分析」講師

広島経済大学 経済学部メディアビジネス学科 准教授 貫名貴洋

現在ロシアにて開催中のサッカー・ワールドカップ(W 杯)。6 月 19 日には、グループ H で最も劣勢と伝えられていた日本がコロンビアを 2-1 で下し、大変な盛り上がりを見せています。しかしながら、出場 32 ヶ国の中で、日本以上に盛り上がっていると思われる国があります。北ヨーロッパに位置する面積約 10 万km² の島国で、人口約 35 万人のアイスランドです (Statistics Iceland(<https://www.statice.is/>)より)。世界銀行(The World Bank)から公開されている Open Data(<https://data.worldbank.org/>)によると、2016 年のアイスランドの名目 GDP(国内総生産:Gross Domestic Product)は 203 億 U.Sドル、1 人あたり GNI(国民総所得:Gross National Income)は 56,760U.Sドルとなっています。わかりやすく比較するために日本のデータも見ておきましょう。名目 GDP は 4 兆 9490 億 U.Sドル、1 人あたり GNI は 38,000U.Sドルとなっています。

本題のサッカーの話題に戻しましょう。今回の W 杯においてアイスランドが盛り上がりを見せているにはいくつかの理由があります。長年のアイスランドサッカーの歴史の中で、今回の W 杯が本戦初出場だったのです。アイスランドはグループ D に入り、初戦の 6 月 16 日の対アルゼンチン戦では、1-1 の引き分けと善戦をしました。アルゼンチンは、世界ランキング第 5 位(2018 年 6 月 7 日現在)であり、過去の W 杯でも 2 度の優勝をするなど、言わずもがな強豪中の強豪国です(アイスランドは 22 位、日本は 61 位です)。さらに、現在における世界最高峰のサッカープレーヤーとも称される FW メッシを擁しています。アイスランドの人たちからすれば、初出場の自国を全力で応援するという思い、世界最高峰のチームに対しどのような試合内容が見られるのかという思い、スーパースターのメッシのプレーを見たいという思いなど、注目をせざるを得ない一戦であったことでしょう。

その試合数日後、こんなニュースが飛び込んできました。“99.6% of Iceland’s TV viewers watched Argentina draw”。アイスランドの TV viewers の数字は、日本で言うところの「視聴率」とは異なる基準で算出されているのですが、それでも驚愕の数字です。さらに遡って調べていると、2 年前の EURO2016 決勝トーナメント 1 回戦でイングランドに 2-1 で勝った試合では、99.8%という数字だったようです。6 月 19 日の日本対コロンビア戦の平均視聴率は 48.7%、瞬間最高視聴率 55.4%であったそうです(ビデオリサーチ調べ、関東地区)。正直なところアイスランドの数字は「半端ない」という印象ですね。

日本におけるテレビ視聴率はビデオリサーチ社が算出をしています。統計的に有意な数字が得られるように無作為に世帯

を抽出し、PM システムやオンラインメータシステムを活用することによって翌日には日報が発行されています。抽出されている世帯は、関東地区では 900 世帯、広島地区では 200 世帯だそうです(詳しくはビデオリサーチ『TV Rating Guide Book』を参照ください)。ちなみに、日本におけるサッカーでの過去最高視聴率は、2002 年日韓 W 杯での日本対ロシアの一戦で、66.1%(平均世帯視聴率、関東地区)を記録したそうです。前述のアイスランドの数字とは比較にもなりませんね。もしかすると、アイスランドの数字は「視聴率」ではなく「占有率」なのかもしれません。たとえ占有率だったとしても、「半端ない」数字には変わらないのですが。

視聴率のように、母集団全体を測定することが困難であることから、統計的に有意な標本を取り出し、知りたい数値を算出するものといえば、マスコミが実施している「世論調査」があります。近年この「世論調査」が実感とずれているという声をよく耳にします。世論調査はマスコミ 12 社が実施しており、うち 11 社は「RDD(乱数番号法:Random Digit Dialing)」を用いています。RDD とは、ランダムに作られた番号に電話をかけ、オペレーターが意見を聞くという社会調査法の一つです。ここ 20~30 年くらいは世論調査の代表的な手法として確立されています。市外局番・市内局番などの既知データから居住地を特定することも可能であり、選挙時の情勢予測などにも活用が可能です。ところが携帯電話やスマートフォンの台頭によって、固定電話加入件数が激減しています。若年層に至っては携帯電話のみしか所有していない者も多く、現在では 20%前後が該当するそうです。このような現状では、これまでの RDD 方式による調査では限界が生じてしまいます。携帯電話のみの調査にしてしまうと、逆に高齢者層が反映されにくくなるそうです。そこで現在では、RDD dual mode や RDD mix といった、固定電話・携帯電話併用の調査を開始しています(私の入手した情報では 7 社が導入済みです)。統計調査手法も、時代やライフスタイルの変化に伴って、劇的な変化が求められているのです。

時代は変われど、環境は変われど、私たちのそばには統計数字が常に寄り添っています。こうした数字を友達にするためにも、「統計学」を少しでも学んでおくことは重要なことだと思います。キャリアアップ・プログラムで「統計学」の扉を開いてみませんか?ちょっとした考え方の変化で、あなたのアイデアが「半端ない」ものへと化学反応を起こすかもしれませんよ。

>>次号は、1 学期「女性のための初歩からの投資(入門編)」、2 学期「女性のための投資(基礎編)」講師 糠谷 英輝先生が担当されます。

◆今週の一冊◆

貫名先生おすすめの一冊です。



『「原因と結果」の経済学』 中室牧子、津川友介 著 ダイヤモンド社

2013 年に『統計学が最強の学問である』が出版され、空前の統計学ブームが起き、学术界でもビジネス界においても統計分析が当たり前の手法となってきました。しかしながら、一般的に見られる統計分析とは、与えられたデータをグラフ化して主観的な文章を述べているに過ぎないものが多く見受けられます。相関関係でしかないものを因果関係まであるかのように論じられている通説もかなり多く存在します。この本では、改めて相関関係と因果関係の違いをわかりやすく説明しているほか、操作変数法などの手法も一般ビジネス書で取り上げるなど、画期的な内容です。今後、ビジネス界において統計分析をする際には、避けて通れない一冊となるでしょう。

◎事務局から◎

2 学期講座「財務会計・会計監査の基礎」不開講のお知らせ

2 学期開講予定の「財務会計・会計監査の基礎」が不開講となりました。受講をご検討されていた皆様にはお詫び申し上げます。

2 学期、3 学期の受講生を募集しております。

講座の詳細、お申し込みについては次の URL からご確認ください。

《キャリアアップ・プログラム》

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

《カルチャー講座》

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/culture/index.html>

※ご意見・ご感想はこちらまで career-up@hue.ac.jp

※メールの配信停止は、次のメールアドレスにご一報ください。

その際は、必ずお名前を記入してください。

career-up@hue.ac.jp

※広島経済大学 公式HP <http://www.hue.ac.jp/>

発信元：広島経済大学 教育・学習支援センター キャリアアップ・プログラム事務局（082-871-9345）